

平成 2 7 年度 会派調査研究報告書

(視察先 1 箇所につき 1 枚)

会 派 名	公明党		
事 業 名	先進地視察 花巻市 橋守事業について		
事 業 区 分	研究研修	調 査	

1 上田市での課題と研修・調査の目的

橋の長寿命化修繕計画策定、上田市が本格的に取り組むにあたり、先進的な取り組みを行っている地域について調査研究を行った。

2 実施概要

実施日時		視察先	岩手県花巻市
平 27 年 8 月 4 日 (火) 13:00 ~ 14:30		担当部局	花巻市 建設部 道路課
報 告 内 容	1 市の概要	県内唯一のいわて花巻空港をはじめ、東北新幹線花巻駅、東北本線釜石線のターミナル駅に加え、東北縦貫および横断自動車道の 4 つの IC などをも有する広域交通の要衝。 市の面積：908.32 k m²。県の中央に位置し、西に奥羽山脈、東に北上高地の山々が連なる。花巻温泉など 14 の温泉群やユネスコ無形文化遺産・国重要無形民俗文化財「早地峰神楽」の他、「南部杜氏」発祥の地として知られている。 06 年 1 月に大迫町、石鳥谷町、東和町と合併。人口：99,230 人（平成 18 年 1 月現在）。	
	2 市の特徴と視察先について	平成 10 年 12 月、地域の自主的なまちづくりを推進するために基本となる区域やコミュニティ会議の役割や市の支援などを定めた「花巻市コミュニティ地区条例」を制定した。 [将来都市像]市民パワーをひとつに歴史と文化で拓く 笑顔の花咲く温か都市（あったかまち）イーハトーブ花巻 を目指している。 雑穀栽培面積は日本一。主な特産品として米、雑穀、リンゴ、ブドウ、リンドウ、花巻牛、白金豚、わんこそば、エーデルワイン、稗焼酎(稗造君)などがある。 出身者として、宮沢賢治。ゆかりの偉人は新渡戸稲造、高村光太郎、萬鉄五郎などがいる。2016 年の宮沢賢治生誕 120 年に向け、宮沢賢治祈念館をはじめ、関連施設の再構築・整備を進めている。 毎日の生活では子供や高齢者の日常の交通が少なく、手段市民から公共交通充実への要望が強い。合併時には人口 10 万人を超えていたが、少子高齢化により、人口が減少傾向にあり、現在は 10 万人を下回っている。	
	3 視察事項	橋守事業について	
	[橋守事業創設の背景]	花巻市の管理橋梁数は 1 0 0 0 橋以上あり、全ての橋梁に対して適切な時期に点検を行うことが困難だった。そこで、職員と市民の協働により、適切な維持管理を目的とした橋守事業を創設した。	
	[橋守制度概要]	橋梁の適切な維持管理を図るため、市とボランティアが市の管理橋梁に危険箇所がないか点検する仕組み。 市が管理する橋長 1 5 m 未満の橋梁 840 橋を対象としている。 比較的規模が大きい橋梁	

感想 (ま と め) ・市 政 に 活 か せ る こ と	(15m以上)は市の職員が点検。 年間171橋の点検を行い、5年間ですべての橋梁を点検。 定期的に橋守点検講習会を実施し、受講者が点検に従事している。従事者の安全に配慮するため点検作業は1グループ、2名以上を原則とし、5班体制で実施している。 [点検の目的] 安全で円滑な交通の確保、沿道や第三者への被害の防止。 これまで市の職員のみで行っていた点検を、橋守(ボランティア)と共同でやることにより、著しい損傷の早期発見が期待できる。 [橋守事業のための付帯事業] 橋守講習会開催(現場研修会も実施) 新規従事者に点検の基準を理解していただく。 橋守講習会参加者には橋守証明書を発行。 橋守点検マニュアル・チェックリスト・報告書の形式を作成。 [準備品等] ヘルメット、安全チョッキ、デジタルカメラ、クラッチスケール、計測ロッド、ボランティア保険加入、作業着、靴と長靴、軍手、筆記用具等 [橋守事業の効果] 適切な橋梁の維持管理 橋梁保全に対する市民意識の高揚 行政コストの低減 ■感想：注目点 (1)建設業従事者をはじめ、県・国で建設関係を担当した経験者が多く、ボランティアとして参加している。現在は人材が豊富だが、今後は人材育成が課題になることもあると考えている。(2)平成26年6月、国土交通省から橋梁の定期点検が地方自治体に義務づけられた。その要項で定められた点検基準と現在橋守事業で実施している点検基準との整合性が課題。 ■市政に活かす (1)橋梁の定期点検のための予算を低減するための取り組み。 具体的な点検計画やマニュアルの策定。 各地域で定期点検業務を職員が行うための人材育成。 点検業務を効率的に行うため、目視の感覚的な統一を図るための仕組みづくり。  
---	--

平成 2 7 年度 会派調査研究報告書

(視察先 1 箇所につき 1 枚)

会 派 名	公明党		
事 業 名	岩手県大槌町 震災復興について		
事 業 区 分	研究研修	調 査	

1 上田市での課題と研修・調査の目的

上田市では、2011年3月の東日本大震災発災から二か月後から約1年半にわたり、岩手県大槌町への社会福祉協議会が行ってきたボランティアバスパックツアーを支援してきた。発災後5年目を迎えるにあたり、支援のあり方や、ボランティアについて、現地を視察し、上田市に提言することを目的とする。

2 実施概要

実施日時	視察先	岩手県 大槌町
平成 27 年 8 月 5 日 (水) 9:30 ~ 15:30	担当部局	9:30 ~ 10:30 議会事務局、復興局都市整備課 10:45 ~ 12:00 社会福祉協議会ボランティアセンター 13:00 ~ 15:30 一般社団法人おらが大槌夢広場

報 告 内 容	1 現在の町の概要 人口 約 12,000 人 面積 200.42km² 2 市の特徴 岩手県三陸海岸、太平洋・大槌湾へ大槌川と小槌川が流れ、震災以前の人口は大槌湾に面した海沿いに集中していた。主な産業は漁業である。 3 視察事項 (1)視察内容 役場、議会事務局及び復興局都市整備課 町の復興状況について 防災集団移転事業(移転元 60.4ha82%から移転先 30.0ha95%用地取得済み) 土地区画整理事業(4 地区 52.4ha)、漁業集落防災機能強化事業、津波復興拠点整備事業 災害公営住宅整備事業、公共施設の復旧 等の実施状況。 また、高さ 6m ~ 14.5mまでの防潮堤、防波堤の建設計画について、仮設住宅入居状況 1607 世帯(3564 人)、他市町村からの応援職員の状況について 社会福祉協議会ボランティアセンター ボランティア交流について 発災当初のボランティア協力から現在のボランティアのニーズについて、また、上田市からの応援や交流について意見交換。 おらが大槌夢広場 民間のまちづくり活動について、震災被災現場の現地視察について (1)復興状況について地域団体からの意見、考え (2)被災地現地視察 4 感想・上田市に活かせること 上田市は、岩手県大槌町へ社会福祉協議会が行ったボランティアバスパックを支援し、この間、多くの市民がこの地で復興ボランティアに携わってきた。町のボランティアセンター職員からも上田市民の活動は記憶に残っていて、鮭が遡上する河川のがれき撤去等についても上田市民から

の提案から行われたと聞いた。

現在のボランティアニーズは作業ではなく、町民との交流や一緒に活動する内容が求められている。

上田市への提案：震災から5年を迎える平成28年には、町との交流を目的としたボランティアバスパックツアーの開催支援を行いたい。

また、現在、大槌町の職員は従来の倍となり、その数は県内外の行政職員が派遣されている。県内では軽井沢町から2名が派遣されているが、上田市の職員派遣についてはその必要性を含め現状を調べ、今後の災害派遣に関しても柔軟な対応ができるかどうか調べる必要がある。

市民団体の声は、復興はこれから始まったばかりである、上田市民がボランティアで関わった地域であることを踏まえ、今後は交流（市民交流や観光等）を継続的に進めるようにしていく必要性を感じた。



大槌町社会福祉協議会 ボランティアセンター長



おらが夢ひろば・町ミニチュアによる説明



4年前神戸市役所から派遣された町職員から復興・都市計画について説明を受ける。



被災中学校を改造した町役場前にて



震災当時、上田市民の受け入れボランティアセンターがあった被災中学校校庭は、現在仮設商店街。



現地視察：被災した町役場

平成 2 7 年度 会派調査研究報告書

(視察先 1 箇所につき 1 枚)

会 派 名	公明党		
事 業 名	オガールプロジェクトについて		
事 業 区 分	研究研修	調 査	

1 上田市での課題と研修・調査の目的

補助金に頼らない、新しく、豊かで、魅力的な持続的に発展する街づくりを目指す紫波町の調査

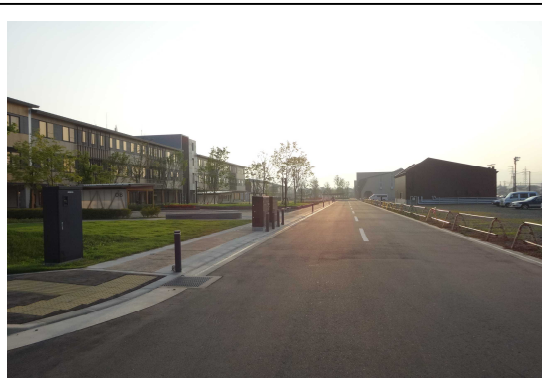
2 実施概要

実施日時		視察先	岩手県 紫波町
平成 27 年 8 月 6 日 (木) 9:00 ~ 11:15		担当部局	オガール紫波株式会社
報 告 内 容	1 市の概要	人口 33,686 人 面積 239 k m ²	
	2 市の特徴	観光・商業振興 環境保全・環境管理	
	3 視察事項	地域経済の活性化を目途に、公民連携の手法による紫波中央駅前都市整備事業 ・・・オガールプロジェクトを進めている。	
		従来型公共事業ではなく、補助金に頼らない地域活性化を進めている	
		駅前の町有地 10 , 7 ヘクタールを中心に、ホテル、バレーボール専用体育館、図書館、 カフェ、産直マルシェ、岩手県フットボール協会事務所を備えたサッカーグラウンド、本年 5 月に P F I 事業で完成した役場庁舎があり官民複合施設が、今後の経済効果を町内全域 に波及させることを目指している。	
		2009 年に策定された「紫波町公民連携基本計画」に基づいて進められている	
		紫波町が抱える問題として、若い世代の人口流失、商店街地区の活性化、子育てしやす い環境、雇用の確保などの解決策として提言したことの取り組み	
		オガールプラザはテナントを募集、それから建物規模、建設費用を算出。	
		コストカットのため、特別目的会社が 11 億円でオガールプラザを建設。	
		その後公共施設部分を紫波町に売却。	
報 告 内 容		売却費用以外は、東北銀行の融資や町と政府系金融機関の出資で賄う	
	■ 感想：注目点	オガールはフランス語で駅を意味する「 g a r e 」と紫波の方言で「成長」を意味する「お がる」がエリアを出発点として持続的に成長していく願いからつけられた。	
		当初は J R に対して、花巻-盛岡間の中間駅として駅の誘致から始まり、駅誘致を条件に、見 合う乗降客確保のために分譲などが進められ、町も上記のとおり広大な用地を確保したが、一 旦頓挫する。	
		そして、民間手法の提案から、新しいまちづくりが始まった。	
		都市と農村の暮らしを愉しみ、環境や景観に配慮したまちづくりを未来予想図を描きながら、 年間 80 万人が訪れている注目の街である。	
	■ 市政に活かす	公共は作ることが目的 民間は儲けが目的。	
		今までの考えを変え、公共は民間より先んじて稼げる投資をしなければ、地域活性化には貢	

献できない。公共事業の工事費の問題では同じ規模の事業を民間で行えば7割の工事費でできる。オガールプラザも民間工事発注でコストを切り詰め、図書館など民間で建てたものを町が買うという形で、コストの適正化を図っている。

P P P (パブリック・プライベート・パートナーシップ) 公民連携はアメリカから始まった考えですが、民間が基本的に主体となって街づくりしていく流れは、地方創生ということからも上田市としても考えていかなければならない。

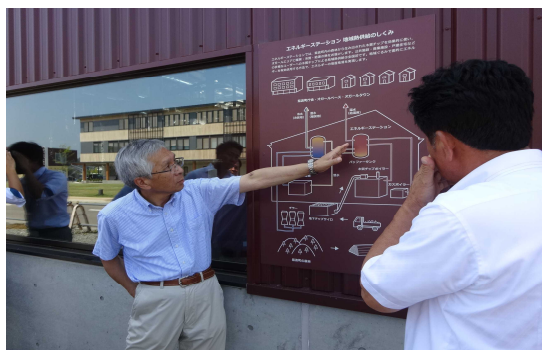
本年、公共施設白書が策定されたが、来年度までの2年間で総合管理計画策定が行われる。公共用地及び施設の在り方について、統廃合、再配置、更新、修繕等を含め上田市全体のまちづくりを見据えた、公共施設の更新、維持管理を目指すうえで、P F I、P P P等の手法など官民連携を行うことも地方創生の1つである。オガール紫波は、地方創生のモデルの1つであるが、人を呼び込むまちづくりの事例でもある。上田市の公共施設の在り方は、今後も議会活動の中で、注目していく。



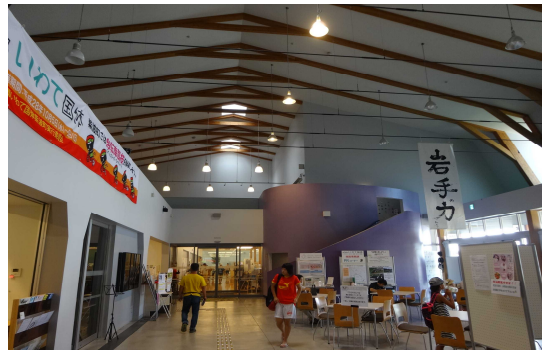
オガール紫波 正面(官民施設)



岩手県フットボール協会グラウンド



敷地内バイオマス発電施設、庁舎・分譲地供給



民間が建設した施設を町が購入、借用。
会議、子育て支援施設、図書館が入る。



PFI による建設された町庁舎



町議会議場